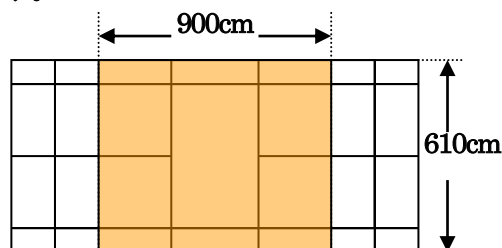


# 少年少女ミニバレー大会ルール

## 1. 施設と用具

バドミントン用コート・ネット・ポールを使用し、コートの広さはサイドライン 900cm×エンドライン 610cm、ネットの高さは 155cm とします。



## 2. ボール

ボールは、ミニバレー専用ボールを使用します。

## 3. チーム構成

チームは6名以内で構成し、ゲームは1チーム4名のプレーヤーで行います。

## 4. ゲーム

- (1) ゲームは 1セット11点の3セットマッチ、ラリーポイント制で行い、2セット先取したチームを勝ちとします。10対10になった場合も11点を先取したチームを勝ちとします。
- (2) プレーヤーの位置
  - ① プレー開始時のプレーヤーの位置は、前衛左、前衛右、後衛左、後衛右とし、サーブが打たれプレーが開始されるまでこのポジションを崩してはなりません。
  - ② 2セット目及び最終セットの開始前に、主審に告げてオーダーを組みなおすことができます。
- (3) 両チームのキャプテンは主審の指示にしたがって、トスによりサーブ権かコート選択権のいずれかを決めます。
- (4) サーブはサイドラインの延長線内で、エンドラインの後方から1本だけ打つことができます。サーブ権が継続している場合同一プレーヤーが続けて行います。
- (5) サーブ権を得たチームはローテーション後、後衛右に位置したプレーヤーがサーブを行います。
- (6) ボールを相手コートに返すため、最大3回までプレーすることができます。
- (7) ボールは、手または腰から上であればどこでもプレーすることが可能です。
- (8) チームはボールがデットの時、セットごとに2回までタイムアウトをとることができます。1回のタイムアウトの時間は、30秒以内とします。

- (9) ゲーム中のプレイヤーの交代は、ボールがデットの時副審に告げて行います。登録されたプレイヤーであれば何回でも交代することができます。

## 5. 反則

- (1) オーバータイムス  
相手コートにボールを打ち返すために、ボールへの接触回数が3回を超えた場合。
- (2) オーバーネット  
相手コートにあるボールに、ネットを越えてふれた場合。
- (3) タッチネット  
プレイヤーがインプレー中に、身体または衣服がネットにふれた場合。
- (4) ドリブル  
1度ボールにふれたプレイヤーが、ボールがネットにふれる前に続けてボールにふれた場合。同一チームの二人のプレイヤーが同じにボールにふれた場合は1回のプレーとみなし、そのボールが他のプレイヤーまたはネットにふれる前に再びプレーした場合。
- (5) ホールディング  
ボールをすくいあげたり、つかんだり、運んだりした場合。
- (6) バイオレーション  
サーブに対して、ボールが完全にネットを通過しないうちにレシーバー側がボールにふれた場合。
- \* サーブに対してダイレクトでアタック・ブロックすることは可能ですが、ボールが完全にネットを通過してからでないとは反則になります。
- (7) アウトオブバウンズ  
ボールがコート外に落ちた場合。また、ボールがネット上を通過しなかった場合。身体が、他のコートまたは他のコートのサイドライン想像延長線上に入った場合。
- (8) アウトオブポジション  
サーブが打たれたとき、プレイヤーの前後左右の位置関係が違っていた場合。
- (9) フットフォールト  
サーブを打つときラインを踏んだり、踏み越した場合。
- (10) サービスフォールト  
サーブがネットにふれたり、アウトオブバウンズになった場合。